

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270202460		
法人名	医療法人社団 平世会		
事業所名	グループホームひろた 3F		
所在地	長崎県佐世保市広田1丁目4番7号		
自己評価作成日	平成22年11月19日	評価結果市町村受理日	平成23年1月7日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

[2F] ・毎月広報誌を発行し、ご家族や地域に向けて事業所の活動内容を伝えています。 ・職員のキャラクターや得意分野を活かせるような視点を大切にしながら、入居者様の生活支援の在り方を日々考える努力を惜しみません。 ・母体の村上医院との協力体制で医療・介護の両面でサポートができています。 ・併設事業所の職員や利用者様との交流が日常的に行われています。 ・入居者様の生活支援に必要な体制作りのために、日頃から2F・3Fユニット間、母体医院と併設事業所で情報の共有化に努めています。
[3F] 「感謝の心を忘れずにやさしい手と確かな手で共に歩みます」…。この理念を基に私たちスタッフは入居者、ご家族、スタッフ同士、地域の方々と共に過ごせることに感謝し、より良いホーム作りと個々に合った適切なサービスの提供ができるように、全ての方々と協力しながら支援をさせて頂いています。

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://ngs-kaigo-kohyo.pref.nagasaki.jp/kaigosip/Top.do">http://ngs-kaigo-kohyo.pref.nagasaki.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活法人 ローカルネット日本福祉医療評価支援機構
所在地	〒855-0801 長崎県島原市高島二丁目7217 島原商工会議所1階
訪問調査日	平成 22年 12月 9日

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「ありがとう」をキーワードにサービスの向上を目指されており、更なるキーワードに「チームワーク・チームケアと理念の合致」を目標にこの一年、業務に従事され成果につながっている。職員一人ひとりの業務の振り返りを通じた自らの課題と向き合う姿勢が、次の個別年間目標に反映されている。職員全体としても、介護の統一に向けた話し合いをされ、統一事項を定めて、ケアのバラつきがないように努められている。現任職員が新任や新人職員をフォローしながら、共に成長するプロセスに真価を求められている。これまで、ややもすると職員の都合で業務が流れがちだったが、現在では利用者中心に考える「ゆとり」が見られるようになっている。ホーム内では「ありがとう」「嬉しい」の言葉と同時に、笑顔がはじけており、会話や触れ合いを楽しんだり、独居を選んでも穏やかな環境の中で、人の温もりを感じながら過ごせるホームである。
--

. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します			
項目	取り組みの成果 該当するものに 印	項目	取り組みの成果 該当するものに 印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

(セル内の改行は、(Alt+ ) + (Enter+ )です。)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>理念に基づく運営</b>					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝と夕方の申し送り時に全員で理念を読み上げることで全スタッフが共通認識をし、日々理念の実践に向け具体的に取り組んでいる。	昨年のリーダー研修受講時の、理念は鏡餅ではないの言葉が現場に持ち帰り、全職員で理念の振り返りと具体的なイメージの取り組みをされ、「感謝、やさしさ、確かさ、共に歩む」を、日々のサービスの提供に反映されている。捉え方も外部評価のための理念ではなく、利用者や家族、地域、事業所、働く仲間等も対象とした理念の具現化に努められている。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方に事業所の行事に参加して頂いたり、事業所側からも散歩や公園で過ごしたり、地元のお店を利用するなど交流する機会が十分にある。また地域の中学、高校、大学から毎年依頼のある体験学習や実習を通じた友好関係も大切にしている。	入居者の殆どが地域の方なので、馴染みの生活環境の中での買い物、散歩等の支援につながっている。地域の中学校の体験学習を通じた利用者と学生の交流は、利用者にとって「自分の孫や曾孫を思い出す」機会にもなっている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	定期的で開催している介護教室や学生達の体験学習での指導や、管理者が定期的に地域の老人会に出向き、介護予防や認知症への理解を深めてもらっている。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	当事業所でのありのままの姿を見て評価して頂き、サービスの向上につなげていくことを目的に、会議では活動状況や今後の課題などを報告してその都度、貴重な意見をもらいサービスの向上につなげている。	運営推進会議メンバーからは、事業所の報告や活動状況について継続が大事や現状に甘んずることなく等、忌憚のない意見を頂戴されており、真摯に受け止めて業務に反映されている。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	管理者が中心となって行政と連絡を取り合ったり、運営推進会議の構成委員である市の保健師を通じて協力関係が築けるよう取り組んでいる。	高齢者支援センター活動を通してグループホームの機能も含めた広報活動をされている。又、グループホーム連絡協議会を介して、市との双方向の連携の取り組みもされている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄關の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄關は日中は常に開放しており、死角の部分には鏡を置くなど工夫し、安全で安心な環境作りが心にかけている。また身体拘束については研修に参加し知識を深め、拘束をしないケアに取り組んでいる。	法人全体の事業案内を事業内容ごとに、説明・紹介したものを1冊にまとめたパンフレットも手作りされており、その巻末に身体拘束排除宣言を綴じられている。又、留意点として、利用者の想いを尊重し、行動の制限に繋がらない支援と業務の常態化防止も踏まえて、申し送りや定例会議での定期的な業務の振り返りを心がけられている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体観察を十分に行い、小さな傷やあざも発見した際には全スタッフで共有し、直ちに原因や今後の対策を立てており、日頃より注意を払っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	運営推進会議の中で保健師より成年後見人制度についての勉強会を行ってもらい制度の理解を深める良い機会となった。現在該当する方はいないが、今後も継続して学習の機会を設けていく。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	説明を行う前に各自が内容をしっかり理解した上で、説明を行うこと。契約時の説明で不安や疑問に思われることがないか、確認をしながら時間をかけて十分に話し合い、理解、納得が得られるようにしている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時には積極的に会話の時間を設け、また玄関には意見箱を設置している。なお、運営推進会議でも意見を頂くことができるので、その都度改善策を考えサービスの質の向上に結び付けることが出来ている。	利用者・家族等と全職員がタイムリーに意見交換できる関係作りが業務に反映されている。面会に来た家族から「使っていないのにコードが差し込まれている。無駄に差し込んで」と火災の発生につながりかねないの気付きをいただき、双方で話し合った結果、コードを外しコンセントカバーの装着に反映され、安心・安全なサービスの提供が協働されている。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日常的に管理者とコミュニケーションが取れており、相談ごとや意見等にも早めの対応をしてもらっている。また、スタッフ会議の場では現場のスタッフと共に意見交換をし、現場の運営に活かされている	運営等に関する職員の意見は、ユニット意見として上層部へ伝えられ、利用者の快適度や衛生面など多岐に亘って取り入れられている。特に、利用者のレベル低下に伴うギャッジベッドやリクライニング対応の車椅子の介護用具の購入は、職員の業務のスムーズな遂行につながっている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	日頃より現場での勤務の様子など気にかけてもらい、体制の調整など考慮してもらっているが、現在の体制に基づいた入居者の生活支援を考える際、必要に応じて代表者にも働き掛けながら充実を図っていききたい。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外、積極的に研修の参加の機会を与えてもらい、個々のレベルアップにつなげられるようサポート体制がある。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH協議会のブロック会議、研修、情報交換等を通して全体のレベルアップにつながっていると思う。また入居相談での空床状況の確認など、他施設の協力を頂きながらネットワークが機能し、相談者に速やかな対応ができるようになった。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>						
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前訪問を行う段階で、生活歴や特技、趣味など本人のことに十分知る機会を持ち、要望が言われない方でもその方の生活の中から必要とされることを見極め支援をしている。			
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の心情を汲み取りながら、どんなに小さな不安、要望でも伝えてもらえるような雰囲気作りに配慮をしながら、本人にとって一番良いサービスは何なのかを共に考えらっている。			
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	スタッフはケアに関して幅広い知識を持ち、入居者や家族が「いま」何を必要としているのか、視野を広げ困っていることや望んでいること等を確認し、例えば併設施設の機能を含めたサービスの提供も可能であるなど柔軟な対応に努めている。			
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者を要介護者としてみるのではなく、同じ生活をしていく一員として互いに協力し、支えあい、できないところは手助けをしつつ、本人らしく本人なりの生活ができるようにスタッフはさり気なく支援をしている。			
19		本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ホームでの生活場面や状況等を面会時や広報誌、またはGHの壁面などで伝達し、それらを基に家族と話す機会を作り出し、家族の協力も得ながら共に支え合うようにしている。			
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の方から昔の様子やなじみの関係の人のことを聞き取り、その内容をスタッフ全員が共有してもし、本人との会話の中でその人が登場してきた時などにすぐ対応ができるようにしている。また、なじみの場所へは外出支援で行くこともあり、昔を懐かしんで頂いている。	入居されている利用者に地域の方が多いこともあり、隣接した法人グループの事業所を利用されている方に馴染みの方も多く、利用されている事業所間を訪問しあえるよう、双方向の交流支援もされている。		
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	例えばリビングのソファにそれぞれが座る位置を配慮するなど、その日によって気分が違う方もおられるため、その日、その時の状況、状態により一人ひとりが孤立せず、またトラブルにならないよう見極めながら対応をしている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	終了されてもホームでの行事の案内や広報誌の発送なども行っているが、普段からの信頼関係を大切にしていけることがその後の関係を継続させていくことにつながるということを意識して業務にあたっている。		
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の心身の状態、会話や生活の様子等を客観的に観察しながら、家族の意向も確認して生活の主体である本人の望む暮らしに少しでも近づけるよう努めている。	職員の観察や気付きを通じた利用者へのアプローチから、利用者の言葉にならない声を感じ、サービスの提供につなぐなど【気付き】を【つなぎ】に反映した取り組みに努められているが、入居一月足らずの利用者の言動を先読みしすぎて、職員の判断が先行する場面が見られた。	利用者の「やる気」や「行動」に対して、職員の寄り添いや見守りながらの様子観察、利用者の行為に対する暖かい声掛けが後押しすることで、利用者の内面が表出しやすい環境の提供に期待したい。
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	担当をしていたケアマネジャーや以前利用されていた介護サービス事業所の職員、また家族や地域の方や本人から得た情報を、職員全員が共有し把握をするよう努めている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	小さな変化や新しい発見に敏感に気付き、職員各自が共有・理解ができるように日々の申し送りや業務日誌等をしっかり目を通し確認をしている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の意思や家族の意見を反映するばいもあれば、本人の状況を見て優先的に必要と思われることを課題としてあげ、家族や他のスタッフと話し合い、その方に合った適切なプランを作成している。	利用者担当職員によるアセスメントシートの作成と全職員の事前検討用紙作成を基に、ケアプランの作成をされている。事前検討用紙を作成することで、職員一人ひとりの意見やアイデアが抽出され、介護計画に反映されている。又、利用者のマイナス面に着目しがちなところも、アセスメントシート作成時に、本人にとっての方向性を具体化させ、できる部分を更に広げていくよう努められている。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日業務に入る前に目を通す業務日誌に、新しい気づきを記入していくことで、情報の共有や日常の振り返りとなり介護計画の見直しにも活かされている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者の年々の体力低下に伴うニーズも多様化しているため、車いすの購入や電動ベッドの設置、吸引器を購入するなど、可能な限りケアの体制を整えて実践をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	市の移動図書館の利用や移動販売によるパンの購入の他、地域の学校からの体験学習や実習を受け入れ、友好的な交流を通して入居者様の生活と職員に対しても良い刺激となっている、		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	殆どの方が母体の村上医院をかかりつけ医となっており、不安や疑問があらわれる家族に対しては、その都度医院の看護師や医師が直接説明を行うなど、その他のかかりつけ医の入居者と家族に対しても同様に連携を密にしている。	専門科受診を除いて、契約時に利用者や家族からの申し出等もあり、母体医院をかかりつけ医院に変更されている。母体医院では利用者の健康指導や健康管理など、経営母体に対する利用者や家族の期待も把握されており、職員も医療系のグループホームとしての責務を真摯に受け止めて、利用者の「きつか」「くるしか」の言葉にも耳を傾けた取り組みを心がけられている。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日頃から入居者様のわずかな変化にも注意を払い、介護職で判断ができないことがあればその都度母体である医院の看護師や当事業所の看護師に相談をして指示を仰ぎ、速やかに受診ができるよう努めている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された場合、本人の現状や経過を直接入院先へ出向き確認をしたり、家族や病院関係者からの情報を基に早めに退院時の受け入れ態勢を整えている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化された場合は、家族と十分に話し合う時間を設け、ホームでの受け入れが可能であるならば医療機関とも連携をとりながら、本人やご家族の希望にできるだけ沿えるような支援を心掛けている。	利用者の病状を踏まえた上で、「療養環境を望まれるのか」「生活の場を望まれるのか」など、利用者や家族の意向を考慮しながら、その都度の話し合いを通じた対応に努められている。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時に備えて看護師の指導のもと、シミュレーションを実際に行い、疑問に思うことがあればその都度看護師に相談して指導を受けている。また法人内の医療安全管理研修の中でも救急蘇生法やAEDの取扱法の指導も受けている。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	法人全体で年2回行う総合訓練を柱に、事業所独自で定期的に行うシミュレーションを繰り返しながら、全職員が防災意識を高めるようにしている。運営推進会議では消防署から講師を招き、災害についての注意事項や対策に関するアドバイスを頂き、それらを基に管理者が地域との関係作りにも努力している。	被災後の利用者へのサービスの提供の継続につながる取り組みまでには及んでいないが、地域との協力体制として後方支援を中心に、障害を抱えている利用者の現状や消防団との連携の必要性を伝えて、現在話し合いの段階である。又、非常災害時には避難場所として提供できる姿勢も伝えられている。	ライフラインの確保の更なる取り組みとして、被災・復興対策にも着眼され、利用者へのサービスの提供の継続を支援してもらえ、バック体制の確保等につながる連携の取り組みに期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりが私たちの人生の先輩として尊重して関係を持たせて頂いている。感謝の気持ちを持って日常の声掛けや対応を心がけている。	「ありがとう」をキーワードにサービスの提供に務められている。体験学習の中学生から「相手の目線に立って考えることの大切さを学びました」のコメントをいただかれている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が自己決定できるよう、スタッフは見守り導き出して対応をしている。自己表現ができない方についても相手の立場に立ち、表情やしぐさ、行動の中からも取りながら支援をしている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	それぞれの方が毎日思い思いに過ごされているが、スタッフ側の都合を優先することも少なくない。入居者一人ひとりのその人らしい暮らしに少しでも近づけるよう柔軟に対応をしていきたい。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月2回の訪問理美容等、希望に応じて利用できるよう支援し、毎朝の整髪や衣類など、季節に合った着こなしなど、その人らしい身だしなみやおしゃれを心掛けている。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日食事の献立を入居者の方々が目に付く場所に設置することで料理への関心や食の楽しみにつながっている。料理に合わせた器の選択や工夫をしながら、一人ひとりが食べる喜びを感じれるように支援している。	料理の煮炊きの匂いや調理音、盛り付け等、利用者の五感への配慮が食を促している。また、食事を通して利用者同士で味付けの批評をされたり、食材から思い出話につながるなど和気あいあいとした食事環境の提供がなされている。利用者の能力に応じた家事作業も職員との連携で機能され、利用者の自信や生活の張り合いになっている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの状態や希望に応じて食事形態を工夫したり、代替え食などもその都度提供をしている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自ら行うことができるよう事前に分かりやすくセッティングをしたり、不十分な部分はスタッフが補足し、場合によっては口腔内の状態を観察して異常の早期発見に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の生活チェック表を基に一人ひとりの排せつパターンを把握しながらトイレ誘導をするなど、失敗を未然に防げるよう支援をしている。オムツや紙パンツの使用も本人の状況を見極めてから対応している。	利用者一人ひとりの排泄パターンやサインを把握し、さりげない寄り添いを通して声かけし、本人の意思の確認や促しなどが本人の自発性を引き出すように支援されている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	思うように排便ができない方への対応として、下剤だけの効果に頼らず、腹部マッサージや飲食物の工夫など、個々に応じた便秘予防に努めている。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	職員研修のテーマとして入浴について全職員で話し合う機会を持ち、入浴に対する理念を作り出すことができた。これを機に入浴支援に対する職員の意識がさらに高まった。	業務のスキルアップを目指し、介護の常態化として入浴支援に着眼され、「職員の目線が優先していないか」を課題に、利用者一人ひとりを対象とした支援がなされていたかをアンケート等を基に会議を設け、検討されている。利用者の身体状況に応じて、併設のデイサービスやデイケアの設備を利用してリフト浴支援を取り入れられ、利用者の清潔維持と爽快感の提供は安心満足につながれている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間の良眠につなげるために日中の活動に外気欲や散歩を取り入れるなど、個々に沿った支援を行っている。居室内の空調管理にも注意を払いながら、快適な空間で過ごして頂けるよう配慮をしている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服用されている薬の薬紙を薬紙ファイルと個人ファイルに挟めて、いつでも確認できるように整理しており、処方日には薬紙と照らし合わせて効能や副作用を確認している。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意とされていること、興味を持たれていること、楽しみ事などを知り、それが生活の中で本人の役割や自信につながり張り合いや喜びをもって過ごして頂けるよう支援をしている。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	定期的に通う病院受診も外気に触れる機会でもあり、個別に希望があった際も外出の支援を行っている。普段は行けない遠い場所へ希望があった時は、計画を立てて実行するようにしている。	利用者が一時帰宅出来たり心の拠り所となる居場所探しを、家族と話し合い本人の気持ちを汲み取って「本人の安らげる還る家」探しに取り組まれている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	数名はお金を所持することで安心され、買い物に出かけたりする際は、直接お金を支払ってもらうなど、当たり前前の行為が当たり前に行えるよう配慮しながら喜んで頂いている。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙は入居者と家族を結びつける大切でかつ有効的なもので、文字を書くことができる方は手紙を書くことを目標にして、日頃よりできるだけペンを持つ機会を作り出すようにしている。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアーは緑色を基調とした色合いで、和やかな落ち着いた雰囲気がある。食卓に季節の花々を飾り四季を感じたり、日常の生活風景の写真などを壁に掲示して生活感を取り入れて演出するなど、居心地良く過ごせる工夫をしている。	食後の時間を、それぞれが自分の生活スタイルで寛がれており、利用者によっては自宅の生活の延長線上で家事作業されている。洗濯物の乾き具合を確認して場所を移動したり、食事の後片付けも職員に話しかけながら、自然に入り込んで手際良く作業され、本人からは活気と自信が漲っている。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビを囲むソファ、食卓テーブルコーナー、畳の間、エレベーターホール、気の合うお仲間同士で居室間を行き来されたりと、各自で自由に思い思いの空間で過ごせるように環境作りに配慮している。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室には馴染みのある家具や愛用品を持ち込まれ、家族の写真やお孫さんの書かれた絵、またスタッフから送られたカードを貼り出すなど、本人や家族の意見を基に工夫を凝らしている。	見せていただいた居室からは、利用者のこれまでの生活環境や趣味等が垣間見えた。本人が大事にされているものや愛しく思われているものを、居室内に持ち込まれたり掲示されており、居室の調度や何気なくおかれた読みかけの本、衣類などから生活感や寛ぎの様子が感じられる。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	本人ができることを生活の中で活かされるよう職員は入居者の「できること」、「できないこと」を見極めながら、安全に配慮しながら本人なりの自立した生活を営むことができるようにいつも見守っている。		

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270202460		
法人名	医療法人社団 平世会		
事業所名	グループホームひろた 2F		
所在地	長崎県佐世保市広田1丁目4番7号		
自己評価作成日	平成22年11月19日	評価結果市町村受理日	平成23年1月7日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://ngs-kaigo-kohyo.pref.nagasaki.jp/kaigosip/Top.do">http://ngs-kaigo-kohyo.pref.nagasaki.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活法人 ローカルネット日本福祉医療評価支援機構
所在地	〒855-0801 長崎県島原市高島二丁目7217 島原商工会議所1階
訪問調査日	平成22年 12月 9日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

# 自己評価および外部評価結果

(セル内の改行は、(Altキ-) + (Enterキ-)です。)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>理念に基づく運営</b>					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「感謝の気持ちを忘れずにやさしい手と確かな手で共に歩みます」の理念を職員一人ひとりが理解し、それを日々の業務に具体的に実践できるよう努力をしている。		
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の住民の方々や事業所に入出入りする業者の方、受診時には外来の患者さんやスタッフなど、外出した際は出会う方たちとの挨拶が日常の光景となっている。		
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	広報誌の地域への配布や、地元の中学、高校、大学の職場体験や実習の指導、ボランティアの演芸を通しての入居者様との交流の他、管理者が兼務する併設の支援センターの出張相談や介護教室等を通して、認知症の予防と理解についての情報を発信している。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	活動内容の報告に加え、ヒヤリハットや事故報告書から得た対策等も委員の皆様へ報告し、確認や意見を頂きながら、当事業所の質を高めていくための欠かせない会議である。		
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	主に管理者が窓口となり行政担当者と連絡を取り合っている。また市GH連絡協議会で他施設との情報交換をしながら、行政とのつながりを大切にしている。		
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中は出入り口関係は開放しており、職員側から死角になる部分にはセンサーや鏡を設置させてもらい拘束しない安全な環境作りを心がけている。また身体拘束の研修に参加して全職員へのレポートを行い意識を高めている。		
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	講習会の出席及び出席者のレポートの閲覧の他、朝礼や会議等においても虐待に関する情報や記事などを通して意識をもつよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在対象となる方はいないが、今年度は運営推進会議の議題として市の保健師を講師に勉強会を行い制度について話し合いをした。今後も学習の機会を設けていき理解に努めたい。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者や主任が窓口となり、入居者様、ご家族に場の雰囲気にも配慮しながら時間をかけてわかりやすく説明をしている。改定を行う際は、事前に入居者様、ご家族に連絡をし、改めて文書で説明を行い、同意を頂くようにしている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の面会の際に必ず近況報告を行っているが、ご家族の目線で貴重なご意見を頂くことも多い。入居者様の生活に反映させるために些細な情報でも共有に努め入居者様が不安を抱かぬよう速やかな対応を心掛けている。		
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定例の主任会議、各フロアー会議、全体会議には毎回出席して現場の意見や提案を拾い上げ、必要に応じてタイムリーに反映されている。		
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各職員の健康状態や家庭の状況も踏まえながら、職場と家庭の両立に支障がないよう勤務の調整等も考慮してもらっている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修会、施設外研修等、随時参加の機会を与えてもらっている。研修のレポートは全職員が必ず閲覧で目を通し、情報の共有を図っている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	相互のサービス向上を目的にGH連絡協議会の研修や活動の他、ブロック例会、研修などに積極的に参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談や見学の際に得た情報等をもとに、現在の状況や入居への不安等も含めた状態像をまず把握し、新しい環境の下での生活にまず必要とされることが何かを見極めた上で支援を行うよう心がけている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人やご家族の意見、入居に対する思いなどを時間をかけながら聞き取りを重ねていくことで、お互いにとって良い関係作りを構築できるよう努力している。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前の情報に加え、本人とご家族の不安も含めた思い、願いなどを新しい環境で生活される本人の目線に立ちながら、安心して過ごして頂くための対策を計画的にかつ優先的に実践している。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は入居者様に対し、尊重と感謝の念を以て生活の主体者が可能な範囲でできることをサポートしながら、互いに影響を与えあう関係作りを大切にしている。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	安心した生活を構築できるよう、面会や電話連絡時に家族に近況を報告し、家族の意見も尊重してサービス提供に臨んでいる。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人たちとの関係を継続していくために、ご家族の協力も得ながらお仲間たちが施設に来られたり、ボランティアで交流の機会を持って頂いたり、デイサービスにこちらから遊びに出向いたりするなど日常的に行っている。		
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お一人お一人の個性を生かせるような場面作りを普通の生活の中で心掛けていることで、お互いのリズムや役割的なものも含めての関係が築かれている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	行事の案内や広報誌の発送など、退居後もいつでも声をかけ合える関係を大切にしている。		
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の心身の状態、会話や生活の様子等を客観的に観察しながら、ご家族の意向も確認して生活の主体である本人の望む暮らしに少しでも近づけるよう努めている。		
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前の調査では生活歴や既往歴、これまでの生活の環境まで情報を収集し、在宅サービスを利用されていた方は、担当のケアマネジャーからも必要な情報を得て環境を整える努力をしている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	業務日誌、生活チェック表、医院との申し送りノートの記録、朝夕の申し送りでの引き継ぎを通して、入居者様一人ひとりの様子や変化などを把握し、職員全員が適切な対応が行えるよう確認徹底をしている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスの前に「事前検討用紙」を用いて、幅広い視点でケアの方向性を考えられるように職員の意見を収集する。また本人やご家族の意向を確認した内容を基に個々の現状に沿った介護計画作成に努力している。		
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	業務日誌や個別記録等に日々の様子や申し送り内容を記入。日々情報を共有しながらケアプランチェック表やモニタリングを通してサービス提供のあり方を評価見直しを行っている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	提供するサービスの内容が常態化することで生活の張りが損なわれないよう、入居者様の日々の過ごし方やリズムを客観的に把握し、時には併設事業所の協力も得るなど柔軟な対応を常に心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地元の方々による演芸交流や中学・高校・大学の職場体験や実習は、入居者様の生活に活力を与えてくれている。また施設での触れ合いを通して地域の皆様が介護に対する意識を深める良い機会にもなっている。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的に本人と家族の希望されるかかりつけ医となっており、医療連携医でもある母体の村上医院との連携を密にした関係作りが安心な医療の提供につながっている。		
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	母体の協力医との連絡ノートを通して、入居者様の状態の変化や経過などの情報を双方で共有しておくことで、安心して受診ができるよう体制を整えている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	母体の村上医院と連携協力医療機関との信頼関係が築かれており、入院から経過、退院までに必要な情報交換も協働しながら早めの受け入れ態勢作りにも努めている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化された場合は、家族と十分に話し合う時間を設け、ホームでの受け入れが可能であるならば医療機関とも連携をとりながら、本人やご家族の希望にできるだけ沿えるような支援を心掛けている。		
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	心肺蘇生法や応急処置のマニュアル作りや、自施設の看護師からの指導や定期的な開催する法人内の勉強会等を通して、日頃から知識と意識と実践力を養うための努力をしている。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	グループホーム単独での毎月行う消防訓練では火災等の緊急時を想定したシミュレーションを行い、法人全体では総合訓練を年2回実施している。また自治会や老人会の定例会に管理者が出席した際は、災害時も含めた協力・理解をお願いしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	生活歴、性格、意思等を尊重して、本人にとって解りやすい言葉や状況設定を心掛けている。周囲から見て不利な立場を察知した時は、さり気なく介入して自尊心を互いに気づ付けないよう気をつけて対応をしている。		
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	何気ない会話や表情の変化などからも本人の思いや意向をくみ取り、状況に応じて自己表現や決定を促すなど、日頃から小まめにコミュニケーションをとりながら信頼関係の構築に努めている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	「いつも笑顔で入居者と寄り添い、ゆとりある対応を行う」と念頭に置いて、お一人お一人のペースに合わせて対応するよう心がけているが、職員の都合を優先せざるを得ない場面の時には、入居者に説明して了解を得てから行うようにしている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問理美容に関しては家族や入居者の意向を聞いた上で利用して頂いている。また行きつけの美容室がある方は、職員が同行するがお店の方も協力的で助かっている。当日着る服なども一緒に選んだり、外出時や行事の際の使い分けなどの配慮をしている。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と入居者の希望を基にバランスの取れた献立作りを心掛けながら、食器や盛り付けにも配慮している。それぞれの役割、能力に応じて台拭きやお盆拭き、味見や盛り付け等、日々職員と共同で行い食事を頂くことが出来ている。		
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	職員と入居者様の希望を取り入れて作成した献立を管理者や栄養士にチェックしてもらい、バランスのとれた食事の提供に努めている。食事と水分の摂取量は生活チェック表や日々の申し送りを基に個別に把握している。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々の状態に応じて必要な準備や介助をして、毎食後に歯磨きとうがいをを行っている。口腔の状態によっては歯科受診や往診などの協力体制も整えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄リズムの把握をし、早めの声掛けや入居者様の仕草や表情からのサインを察知して、トイレに行きたい時にいつでも対応ができるよう心がけトイレでの排泄を促している。自尊心を傷つけないようさりげない対応を心掛けている。		
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	生活シート、生活チェック表に排便状況を毎日記録して状態を把握している。便秘対策として乳製品や寒天などの植物繊維を含んだ食事の提供や、体操などの運動を日課として取り入れている。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	毎日入浴が可能な体制を整えているので、ご本人の希望や、時にはタイミングを観ながら入浴をして頂いている。入浴剤やお湯の温度・量、浴室と脱衣室の空調管理等を個々に沿った対応ができるよう職員間で情報を共有している。		
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間に寝付けなかったり、精神的に落ち着かれない場合は、職員が寄り添いお茶を飲んで頂いたり話をしたりするなど、安心して頂けるよう見守るなど、一人ひとりの体調や生活リズムを大切にしている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の種類や内容等を一覧表を基に職員全員が把握するようにしている。薬が変更になった場合は、業務日誌や薬紙一覧表にその内容を記入し申し送りでも徹底するなど、誤薬防止のためにも毎回慎重に確認をしている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご本人に関する情報を基に嗜好や得意分野等、その日の状況を観ながら負担にならぬ範囲で活動をして頂いている。個々の能力を日常の中で自然に発揮できるように、ご本人にとっても分かりやすいような場面作りを心掛けている。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	可能な範囲で散歩やドライブ、買い物など地域に出かける機会を設け、外部からは訪問パン屋、訪問理容、巡回図書など地域の方々の協力を得ながらよい関係が築かれている。またご家族の協力で日常的に外出される方もいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的にはご家族の了解のもとで職員が管理しているが、自己管理で本人が安心される場合は小額を所持し、週1回の訪問パン屋やスーパーでの買い物の時など、直接支払いをして頂き希望の品を購入してもらっている。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族からの手紙に対しては、ご自身で返事を書かれるか、職員が代筆してやり取りを行っている。また、入居者様からの希望があればいつでも電話をかけられるよう、予めご家族にも確認をとっており協力をして頂いている。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ソファに座って入居者様同士が話をしながらお茶を楽しまれている。廊下の壁には習字やぬり絵の作品や写真などが掲示され季節感を演出している。室温管理は温度計や湿度計を目安に天候具合や入居者様にその都度確認をしながら調節をしている。		
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビを観ながらソファでくつろいだり、エレベーターホールで日光浴をしたり、バルコニーで洗濯物を干したり、畳の間であみものをしたりと、どの空間にもそれぞれが日常的に自由に利用している。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個人が愛用していたもの、馴染みの品物や家族の写真を飾るなど、居心地を意識した部屋作りを工夫している。		
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	職員から見て視覚になる部分には鏡やセンサーを設置して入居者の安全性の配慮に努めているが、安心して解りやすい空間で能力に応じたそれぞれの過ごし方を支援できるよう努力している。		